



日本酒・
歴史好きに
おススメ

もにわし
茂庭氏による新田開発と
城下町の発酵食文化

茂庭氏が整備した城下町松山

松山は、かつては伊達家重臣茂庭家の居城、千石城とその城下町として栄えた土地です。

室町時代、遠藤氏により千石城が築かれ、江戸期に石川氏、古内氏の支配を経て、慶長8年(1603)に茂庭氏が1万5千石で入ります。茂庭氏は、本格的に城下町の整備を行い、城の規模を縮小し、現在の松山高校付近には、千石城の下屋敷として上野館を築き政務などを行いました。

城下町では特に醸造業が発展し、現在も、かつての酒蔵や醤油蔵の建物が残ります。県内の4つの蔵元が合併してできた「一ノ蔵」、以前酒蔵があった場所には、「酒ミュージアム」が建ち、当時の醸造業の様子を資料展示しています。

又、町の一角には県指定無形文化財に指定されている九代目刀匠法華三郎信房日本刀鍛錬所があります。元々は奥州藤原氏が武器調達の為、平泉近郊に住まわせて刀工集団でしたが、藤原氏が滅亡すると全国に散らばったとされ、松山の法華氏の祖も奥州刀鍛冶の刀工集団の一端を担っていたと考えられます。



茂庭氏による新田開発

松山が城下町として栄えた背景には、新田開発による成果があります。伊達政宗が仙台に築城を始めたころから、藩では各領主に新田開発を命じ、各地で開拓を始めました。当時、江戸が急激な人口増加で米不足になり、関東だけでは供給ができない状況に目を付けた政宗公が、仙台領の米を江戸に積み出し、藩の財政基盤を堅固なものにしていきます。北上川・迫川・江合川の合流工事により、水運・排水・灌漑の機能が向上したことで、これが実現しました。

茂庭氏も松山の地へ入った後、新田開発により石高を倍以上に増加させました。1603年からの開発で、約200ヘクタールを拓き、その収穫量は212貫文(212石、おおよそ120トン)に達したと記録に残っています。これらの開発は1646年から1649年にかけて開削された荒川堰により、松山地域へ水がもたらされたことにより実現したといわれています。



CHECK 1

伊達政宗を言いくるめた重臣茂庭綱元と茂庭御膳



【茂庭御膳】
詳しくは大崎市公式HP
<https://www.city.osaki.miyagi.jp/index.cfm/24,1053,105,222,html>

伊達政宗の五男、卯松丸の元服式で茂庭家十四代綱元が後見人を務めました。式は綱元宅で盛大に行われましたが、グルメとして名高い政宗は質素な料理に不満を覚え、家臣に不満をこぼしました。それを聞いた綱元は政宗に「戦の時、早く天下を太平にして、いものこ汁に鰯の焼魚で大豆飯を食べたいとおっしゃったはず。太平の世になった今、ご希望のものをお出したまでのごこと。」と言いくるめたと伝えられています。その時の料理をイメージして、松山の地場産品と発酵食品を活かして作られた料理が「茂庭御膳」です。それぞれのお店の持ち味と地元の食材で季節に応じて変わる「茂庭御膳」を是非ご賞味ください。

CHECK 2

酒蔵との環境保全型農業の取り組み



【松山酒米研究会】

松山地域にある酒蔵「一ノ蔵」では、環境保全米であるふゆみずたんぼ米や、酒造好適米「蔵の華」によって仕込みを行っています。また、松山には酒米研究会という会があります。会発足のきっかけは平成5年におきた大冷害。今野会長は「このままでは自分たちの農業が行き詰まるのではという焦りがあり、皆で頭を悩ませていました。そんなとき、一ノ蔵との酒米の契約栽培、という案が出てきたんです」と振り返る。平成13年には無農薬・無化学肥料による専用酒米の栽培を実現。8.6haで始まった作付面積は約9倍の73.5haにまで拡大しています。

START GOAL

し えい ちゅう しゃ じょう

1 市営駐車場



御本丸公園の麓に位置する市営駐車場からスタートです。公園までは急こう配が続きます。あせらずゆっくり登ってください。

■住所/大崎市松山千石字松山230-4

2 御本丸公園



中世松山の中心的な城であった千石城跡で、本丸・二ノ丸・三ノ丸に分かれています。現在では、千石城址三の丸を運動公園として整備し、コスモス園となりました。展望台からは、大崎耕土東部の田園風景を見ることが出来ます。毎年9月頃の土日祝には幻の鉄道「人車」のレプリカ車輛で乗車体験ができます。台車に簡単な車体を取り付けて貨客を乗せ人の力で走った鉄道で、大正末期からの数年間、松山町駅から町中心部までの約2.5kmをおよそ15分で結んでいました。



■住所/大崎市松山千石字本丸6



3 松月堂

伝統菓子「もすほ糖」は、もち米とシソと砂糖を混ぜて固めた、やわらかい落雁のようなお菓子。その名前は茂庭周防の3文字にちなんでいます。



■電話番号 / 0229 - 55 - 3113
■営業時間 / 8:00 ~ 19:00
■住所/大崎市松山千石字松山232-1

4 稲荷神社、上野館跡

■住所/大崎市松山千石字松山1-1

【稲荷神社】かつて茂庭氏はこの地を荒らす大蛇を、白羽の矢を白羽箭稲荷神社から得て退治したと言われており、この武勇伝を聞いた伊達朝宗に召されて幕下になりました。そのことから千石城に勧請し、上野館居城後には、神社も遷座されました。

【上野館跡】茂庭氏は千石城三ノ丸に居住していましたが、その後三ノ丸が手狭になり、この上野館を築きました。当初は千石城との併用でしたが、後に完全に移り、以後代々上野館を居城としました。現在では多くが松山高校の敷地となっています。



More Pick UP!!

刀匠法華三郎(日本刀鍛錬所)

大和伝という日本刀を作る工房。山城大掾国包の流れをくむ大和伝保昌派を鍛造しているのは、日本の刀工百余人の中で九代目法華三郎信房氏のみと言われています。かつて鎌倉末期に完成した刀の製法で、一度は廃れてしまったが、伊達政宗のころの仙台藩が復興をさせました。



■電話番号/0229 - 55 - 2106
■住所/大崎市松山千石字南亀田76



おすすめルートプラン

移動時間:約40分

START 1 市営駐車場

700m ※のぼり坂 9分

2 御本丸公園

700m 9分

3 松月堂

600m 8分

4 稲荷神社・上野館

850m 11分

5 ふるさと歴史館・酒ミュージアム・華の蔵

すくとなり 0分

6 松本豆腐店

100m 2分

GOAL 1 市営駐車場

敬業ルート 移動時間:約40分 距離:約3.0km

5 松山ふるさと歴史館・酒ミュージアム・地酒や華の蔵



【ふるさと歴史館】松山の郷土史を専門とする博物館で、地域の領主だった仙台藩重臣の茂庭家に関連した資料を中心に、原始時代から現代に至る文化遺産などを展示しています。

■電話番号/大崎市教育委員会松山支所 0229 - 55 - 2215
■開館時間/9:30~17:00 ■休館日/月曜日(※祝日の場合はその翌日、年末年始)
■入館料/(大人)230円(小・中・高校生)110円 ■住所/大崎市松山千石字松山428

【酒ミュージアム】酒蔵をイメージした白壁の建物で、昔酒づくりに使われていた桶や樽、酒の歴史や種類・特徴など酒に関する資料を展示しており、お酒のミニ知識を学べます。ここで予習すると一ノ蔵見学がぐっとおもしろくなります。

■電話番号/0229 - 55 - 2700
■開館時間/9:30~17:00
■休館日/月曜日(※祝日の場合はその翌日、年末年始)
■入館料/(大人)300円(高校生以下)150円 (大人団体料20名様以上250円)
■住所/松山千石字松山242 - 1

【地酒や華の蔵】酒ミュージアム隣接。地元宮城のそば粉を使用したそばや、みそ焼きおむすび、有機栽培コーヒー、酒アイスクリームなど、こだわりのメニューがあり、物産販売コーナーでは、一ノ蔵の日本酒、ジョウセン仙台みそ、他、松山の銘品を取り揃えています。

■電話番号/0229 - 55 - 2700
■開館時間/9:30~17:00
■休館日/月曜日(※祝日の場合はその翌日、年末年始)
■住所/松山千石字松山242 - 1

6 松本豆腐店

城下町の雰囲気のある建物で、手作りの豆腐を販売。

■電話番号 / 0229 - 55 - 2163
■住所/大崎市松山千石字松山234

